

---

## 第五回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブルを開催しました

---

第五回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブル（以下「ラウンドテーブル」と呼ぶ）が平成29年8月10日（木曜日）午後7時から此花区民ホール第1会議室にて開催されました。



このラウンドテーブルは、生活の中で「してみたいこと」をテーマに自由にアイデアや意見を出し合う場です。年齢や性別、肩書は一切関係なしに、此花をよりよくするために何か話そう。何か語ろう。という構想で行っています。

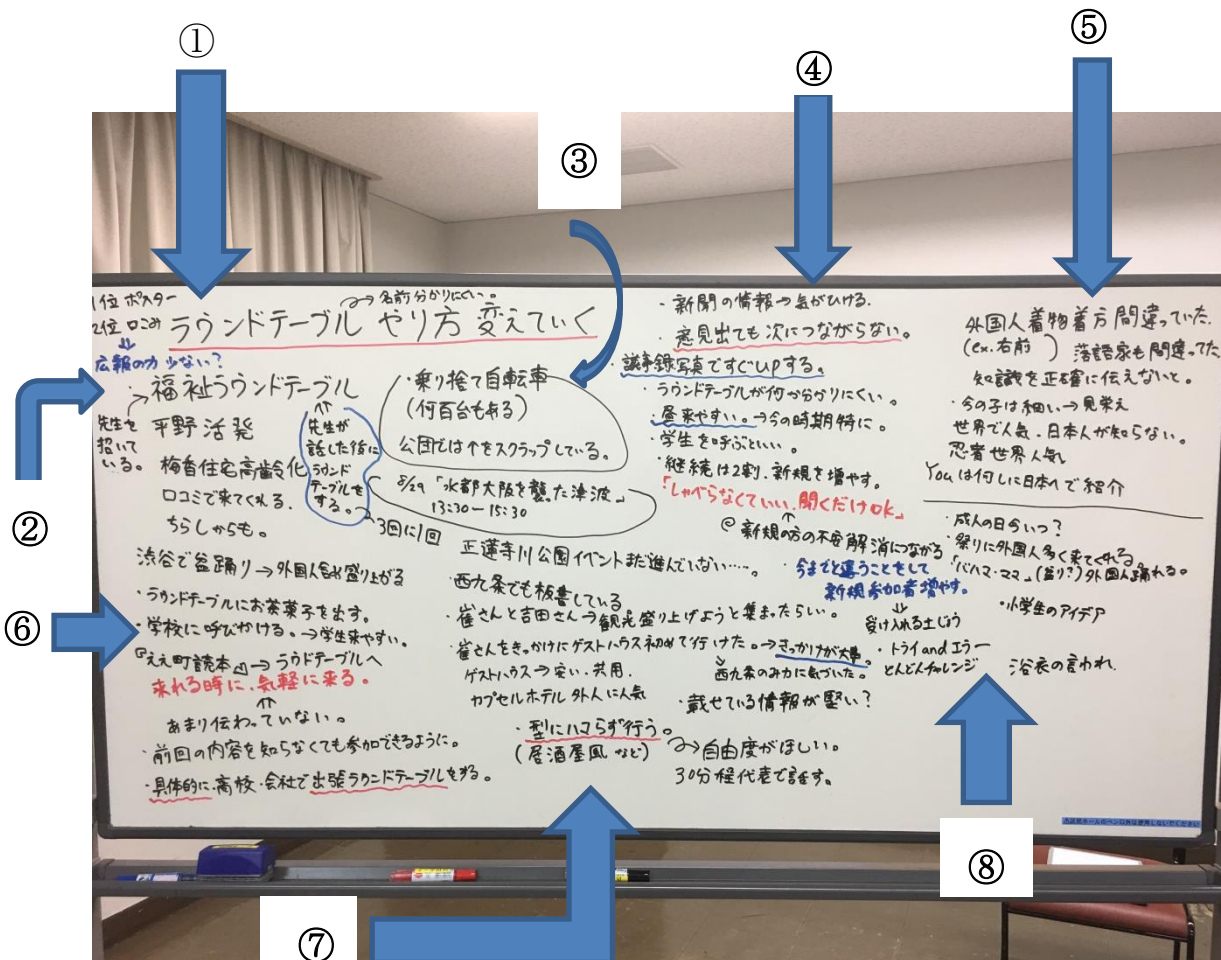
毎月第2木曜日に此花区民ホールにて開催され、今回は8名の方にお集まりいただきました。

ラウンドテーブル終了後には毎回、参加者同士の情報交換や連絡先交換が行われます。ラウンドテーブルは月1回の開催ですが、知り合ったメンバー同士が別途集まり、交流しているケースもあります。毎回参加できなくても結構ですので、ご興味がある方はぜひ一度ご参加いただきたいと思います。

次回のラウンドテーブルは9月14日（木曜日）午後7時から此花区民ホール第1会議室にて開催されますので、皆さんふるってご参加ください！

尚、今回のラウンドテーブルより、参加者の発言内容をホワイトボードに板書していくこととなりました。途中参加の方が板書内容を見ることで話の流れをつかむことができるだけでなく、ホワイトボードを見ることで話が脱線した際にも本題に戻ることが容易であるとの意見が出たためです。

今回のラウンドテーブルの内容は次の通りです。



①・・・参加者 A さん（此花区外在住）より、ラウンドテーブルでホワイトボードに板書を行う提案がなされました。会議の終了時にホワイトボードの写真を撮ることで議事録として残すことができ、会議の内容を文字に起こすことで途中参加の方も話を理解することが容易になります。議事録をまとめて公開するのが遅くなるにつれ、会議の内容が薄れてしまうので、板書の写真を早めに公開するべきだとの意見でした。

今回は参加人数が少なかったこともあり、板書という新しい取り組みを始めました。同時に、「今後のラウンドテーブルの進め方、進行方法を改善していく」というテーマで話を展開しました。

②・・・A さんは此花区で行われている福祉ラウンドテーブルに参加されました。そこでは議事録並行のホワイトボード形式で会議が行われており、それが今回の提案のヒントとなったようです。B さんは福祉ラウンドテーブルの主催者です。そこでは講師の先生を

招き、30分程度話を聞いた後に会議を行っていることを教えていただきました。福祉ラウンドテーブルの参加者の多くは口コミやちらしを見て来られているようです。此花区民ホール開催イベントへの参加のきっかけはポスターや口コミというアンケート結果が出ています。



- ③・・・Cさんが、前回ラウンドテーブルで議題となった、「レンタルサイクルとして放置自転車を利用することは可能であるか」を調べて来ていただきました。Cさんがお住まいの公団では、年度末になると毎年何百台もの自転車が放置されるそうです。引っ越し時に自転車を処分せずに転居されるようですが、Cさんの公団ではそれらを廃棄しているとのことで、公団の放置自転車をレンタルサイクルとして再利用することは難しいようです。

また、Dさんより講演会の告知をしていただきました。平成29年8月29日（火）の13:30～15:30、此花区区役所3階講堂A・Bにて長尾武先生より「水都大阪を襲った津波」～石碑は次の南海地震を警告している～という講演会が行われます。詳細は此花区民ホールHPのイベントのページに掲載しますのでご確認ください。

- ④・・・話は議題の「今後のラウンドテーブルの進め方、進行方法を改善していく」に戻り、現在のラウンドテーブルの課題点を挙げました。主に3点の意見が出ました。1つ目は広報このはなに情報を掲載していますが、それを見てラウンドテーブルが何をしているのか分かりにくいという意見です。2つ目は会議内で良い意見が出ても次につながないのではないかと、それは前出の「議事録の公開が遅く、会議の内容が薄れていく」ことも影響の1つだと考えられることから、板書の内容を早く公開すべきではないか、という意見です。3つ目は、ラウンドテーブルに新規の参加者が少ないという意見です。毎回夜間の開催であり、午後の開催を企画してみてもどうかという案が出ました。また、斬新な意見を期待して若い人、特に学生の参加を期待したいという意見もありました。

- ⑤・・・Cさんは前回のラウンドテーブルに参加してくださったSさんのゲストハウスを訪問されました。ゲストハウスには多くの外国人がいて、ある外国人の方が浴衣の着付けをしていました。Cさんは着物の着付け講師をしていた経験があり、外国人の方の浴衣の着方が間違っていることに気づき、お手伝いしましょうかという流れになった話をしてくれました。そこから、日本人の浴衣事情や、忍者の話題など、日本文化の話となりました。



- ⑥・・・話は本題の「今後のラウンドテーブルの進め方、進行方法を改善していく」に戻り、④で議題となった「新規の参加者を獲得する」ために、高校で出張ラウンドテーブルを開催する案がEさんより出ました。ラウンドテーブルが何をやっているのか分かりにくく、尚且つ学生の参加者を呼び込みたいということであれば、実際に高校でラウンドテーブルを実施し、イメージを掴んでもらうことで参加へのハードルが低くなるのではないかと、ということでした。ラウンドテーブルは「来れる時に気軽に来る」というスタンスですが、あまり皆さまに伝わっていない印象を受けるので、出張ラウンドテーブルに参加者は肯定的な様子でした。
- ⑦・・・さらに⑥から話が進展し、型にハマらずラウンドテーブルを行うということで、居酒屋風ラウンドテーブルという案が出ました。また、②の福祉ラウンドテーブルのように、参加者の中から代表者が30分程度、生活の中で「してみたいこと」を話していただき、そのテーマについて会議を行うと面白いという意見もありました。新規の方は初めて参加する不安があるだろう、ということで、ラウンドテーブルは「しゃべらなくていい、聞くだけOK」のような説明であれば、不安解消につながるのではないかと発言がありました。新規参加者を増やすために、どんどん新しい取り組みに挑戦していくという建設的な意見が出ました。

- ⑧・・・最後に⑤で話題になった着物の話になり、Cさんより浴衣の謂れを教えてくださいました。昔、殿様が今でいうサウナのようなところに入る時に着ていたのが浴衣と呼ばれる所以のようです。

今月は以上です。参加して下さいました皆さん、ありがとうございました。